

下館炯屋遺跡発掘調査報告書

— 一関市消防団花泉第3分団第1部消防屯所建築工事に伴う発掘調査 —

平成29年11月

一関南消防署 発行
一関市教育委員会 編集

序

一関市花泉町は、ハナイズミモリウシに代表されるように、旧石器時代の遺物が確認でき、その当時からの人々の生活の痕跡が見られる地域です。古代には中村郷たかくらのしょうや高鞍荘、近世には磐井郡流ながれと呼ばれ、なだらかな丘陵部と低地が広がる場所でした。人々の生活の痕跡である埋蔵文化財包蔵地も、多く存在しています。

その埋蔵文化財包蔵地の一つに、下館炯屋遺跡しもだてどうやがあります。県道弥栄金成線の整備に伴い、平成7年から8年にかけて岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによる発掘調査が実施され、縄文時代から中世にかけての多数の遺構・遺物が確認されました。

このたび、県道弥栄金成線に隣接する場所に消防屯所の新設を予定しております。これに伴い、市教育委員会による記録保存のための発掘調査を実施しました。この調査成果を広く公開し、市民並びに全国の方々にも当市の文化財を知って頂き、関心が高まることを期待しています。また、地域のルーツを紐解いていくことが、より良い地域づくりの一助になれば望外の喜びです。

最後に、調査に際しては地権者、地域住民の皆さまをはじめ多くの方々のご協力を頂きましたことに衷心より感謝を申し上げます。

平成29年11月

一関南消防署

署長 小野寺 幸 雄

一関市教育委員会

教育長 小 菅 正 晴

例 言

- 1 本書は、一関市教育委員会が平成29年度に実施した下館炯屋遺跡発掘調査の報告書である。
- 2 調査は、平成29年度に一関南消防署が実施する一関市消防団花泉第3分団第1部消防屯所建築工事に伴い、記録保存を目的とした発掘調査である。
- 3 調査対象地は、一関市花泉町花泉字町47-2である。
- 4 調査主体は、一関市教育委員会 教育長 小菅正晴であり、現地調査は文化財課が担当した。
- 5 調査体制は以下のとおりである。

教育委員会	文化財課	課長	佐藤 武生
		文化財係長	坂本 光司
		学芸員	菅原 孝明
		文化財調査研究員	二階堂 里絵
- 6 本書の執筆、編集は二階堂が行った。
- 7 調査に係る補助業務は、モリウシ希望ネット花泉に委託した。
- 8 調査参加者・機関（敬称略・順不同）
岩沼慶浩、及川敏行、小野寺昭博、熊谷サキ子、熊谷俊幸、佐々木悦郎、佐々木誠幸、佐々木力、佐藤正一、佐藤誉、菅原恵子、菅原松司、菅原徳臣、豊田和二、羽賀絹子、辺見今叔、モリウシ希望ネット花泉

目 次

序 ..	01
例言 ..	02
目次 ..	03
1 位置と環境 ..	04
2 調査に至る経緯 ..	07
3 調査結果 ..	08
4 まとめ ..	10
写真図版 ..	15
抄録 ..	19

1 位置と環境

一関市は、岩手県の南端に位置する。平成17年（2005）9月20日に一関市、花泉町、大東町、千厩町、東山町、室根村、川崎村の7市町村が合併、さらに平成23年（2011）9月26日に藤沢町と合併した。東西に約63km、南北に約46kmの広がりを見せる市の総面積は1,256.42km²である。

一関市の自然環境は、中央部を北上川が南流し、西側に奥羽山脈、東側に北上山地がある。著名な記念物は、コニーデ型二重火山である栗駒山（須川岳）を中心とする火山性山岳風景地の「栗駒国定公園」（昭和43年（1968）国指定）や北上川水系磐井川流域の史跡「骨寺村荘園遺跡」（平成17年（2005）国指定）および重要文化的景観「一関本寺の農村景観」（平成18年（2006）国選定）、下流部には変化に富んだ溪谷景観をなす名勝及び天然記念物「巖美溪」（昭和2年（1927）国指定）がある。市の東側には同じ北上川水系の砂鉄川流域に、名勝「猊鼻溪」（大正14年（1925）国指定）がある。

下館炯屋遺跡がある一関市花泉町は市の南端に位置する。この地域は、12世紀に摂関家領荘園であった高鞍荘の領域に含まれるとされており（花泉町史編纂委員会1984）、藤原頼長の日記『台記』には、仁平3年（1153）、高鞍荘の管理者であった藤原基衡との間で、年貢の増収をめぐる応酬があったとの記述がみられる。

下館炯屋遺跡は、花泉町の北西隅、有馬川と金流川に挟まれた中位の河岸段丘上に位置する（表1-4、図2-4）。南約450mにはハナイズミモリウシ等の獣骨が出土した後期旧石器時代の遺跡である金森遺跡（表1-8、図2-8）、西約550mには延暦年間（782～806）以来の館跡と伝えられる史跡「二桜館」（昭和51年（1976）市指定）（表1-5、図2-5）がある。

表1 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	種別	年代	遺構	遺物	発掘調査年	文献
1	尼壇	塚	中世	塚			
2	山神館	城館跡	中世	郭、土塁、空堀、平場			
3	大槻館	城館跡	中世（桃山）	石碑			
4	下館炯屋	集落	縄文、平安、中世	土坑、竪穴住居、掘立柱建物、溝	縄文土器、石器、土師器、須恵器、灰釉陶器、中国産磁器、国産陶磁器、鉄製品、鋳型	平成7・8・29	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（1999）
5	二桜館（清水城、舞鶴城）	城館跡	平安～桃山	郭、土塁、空堀、井戸			
6	上館	散布地	縄文		縄文土器、石器、骨器		
7	宝泉院跡	寺院跡					
8	金森	散布地	旧石器		獣骨	昭和34・35	花泉町教育委員会（1993）
9	下金森	散布地	縄文、古代		縄文土器、須恵器、獣骨	昭和50	花泉町教育委員会（1988）
10	高山館（金森城）	城館跡	室町～江戸	郭、土塁、空堀			
11	七ツ森	塚		塚9基		昭和29	草間俊一（1956）

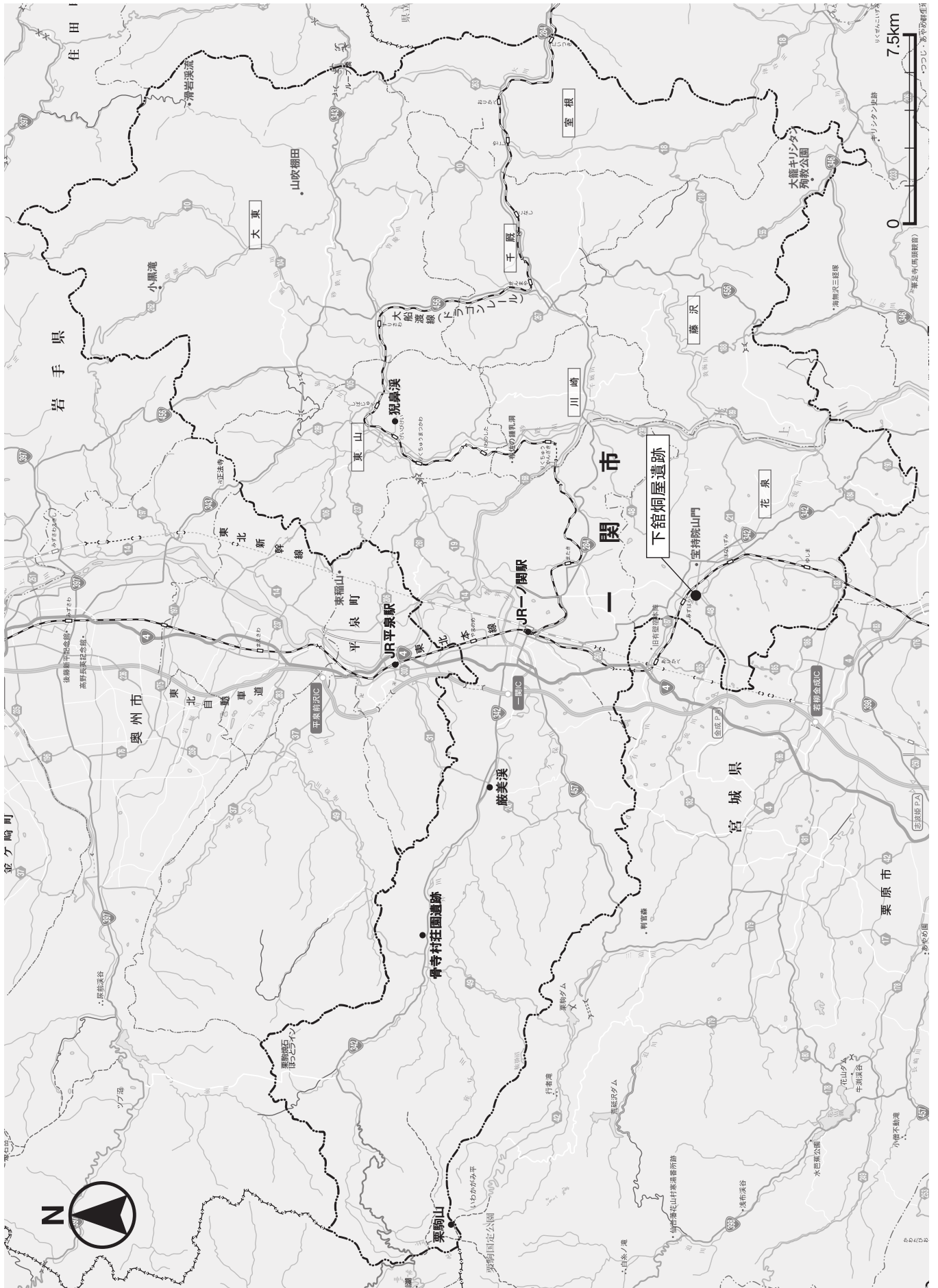


図1 下館焔屋遺跡位置図



図2 調査地点および周辺遺跡位置図

2 調査に至る経緯

下館炯屋遺跡は、今回調査地点の周辺において、平成7・8年度に岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターにより、主要地方道弥栄金成線道路改築工事（金成街道踏切）に伴い発掘調査が実施されており、縄文時代早期から後期、平安時代、中世の多数の遺構、遺物が確認されている（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1999）。

平成29年2月9日、一関南消防署が一関市消防団花泉第3分団第1部消防屯所建築工事についての通知を一関市教育委員会に届出、協議の結果、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

3 調査結果

調査地点は、下館焔屋遺跡の南部に位置し、標高約37m、一関市花泉町花泉字町47-2である（図3）。周辺は平成7・8年度に岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターにより、主要地方道弥栄金成線道路改築工事（金成街道踏切）に伴い発掘調査が実施されており、縄文時代早期から後期、平安時代、中世末期に属する多数の遺構、遺物が確認されている。調査地点に隣接する部分の周辺からは、16世紀末から17世紀初頭頃の掘立柱建物、柱穴群、溝、土坑から中国産磁器、国産陶磁器、古銭、板碑の他、鋳型、炉壁破片等の鋳造関連遺物が多数出土している。鋳型は、内耳鉄鍋の鋳型である（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1999）。

屯所建物建築予定地及びその前面のアスファルト舗装範囲を調査区とし、重機を用いて表土を除去後、遺構の確認を行った。平面図はトータルステーションを用い、1/20で作成した。写真撮影は、35mm版カメラ（リバーサルカラーフィルム）とデジタルカメラを用いた。土層断面図の土色表示は新版標準土色帳1997年度版（日本色研事業株式会社）を用いている。

現地での調査期間は平成29年4月10日から4月24日、調査面積は108m²である。

利用した測量基準杭の成果（世界測地系第X系）は、以下の通りである。

基K 1 X = -127, 838. 031、Y = +28, 779. 168

基K 4 X = -127, 847. 474、Y = +28, 761. 047

基K 6 H = 37. 811

（1）基本土層

I層 10YR 4/3 にぶい黄褐色シルト。砂質分を多く含む。炭化物を含む。粘性あり。しまりなし。現表土層。客土か。（図5-1層）。

II層 10YR 5/1 褐灰色粘土。砂質分を含む。炭化物を含む。粘性あり。しまりなし。鉄分を多く含む。水田耕作土層。（図5-2層）。

III層 10YR 3/2 黒褐色シルトに地山塊（径0.5～3.0cm大）が均一に5～10%混じる。砂質分を含む。炭化物を含む。粘性あり。しまりなし。新しい造成土層（図5-3層）。

IVa層 10YR 6/3 にぶい黄褐色粘土。砂質分、マンガン粒を多く含む。固くしまる。地山層（図5-4層）。

IVb層 10YR 7/3 にぶい黄褐色粘土。小礫が入る。固くしまる。地山層（図5-5層）。

（2）遺構

掘立柱建物1 調査区南西部の地山層上面で掘立柱建物を構成する6基の柱穴を確認した（図4、写真図版2・3）。長軸3間6.7m以上、短軸2間4.6m以上の東西棟とみられる側柱の建物で調査区の南西外にさらに延びる可能性がある。長軸の柱間尺は西から2.2m・2.1m・2.4m、短軸の柱間尺は北から2.8m・1.8mである。長軸方向はN-83°-Eである。柱穴は概ね円形で直径は大きいもので約0.4mあり、底面レベルは標高37.2m～37.3mと概ね揃う。上部が削平されており、確認面からの深さは最も深いものでも0.2m程と浅い。P1・6・12では確認面で柱痕跡を確認した。なお、平面の位置からはP19・24が東側の柱列を構成する可能性もあるが、どちらも深さが0.04m程と、他の柱穴と比して非常に浅い。

柱穴埋土からの出土遺物はないが、平成7・8年度に実施された隣接地の調査で主に中世末期の遺構、遺物が確認されていることから、本遺構の年代もそれに属する可能性が高い。

(3) 出土遺物

遺物は、出土しなかった。



写真1(上)、2(下) 調査作業風景

4 ま と め

今回の調査地点では、掘立柱建物1棟を確認した。平成7・8年に行われた調査結果では、縄文時代、平安時代の遺構、遺物が確認された区域は、本調査区より約50m離れた地点より東に広がる。本調査区の隣接地では、中世末期の掘立柱建物、内耳鉄鍋の鑄造に関連する遺物等が確認されており、今回確認した遺構も、それらと一連のものと考えられる(図6)。

本遺跡西約550mに位置し、延暦(782~806)年間以来の館跡と伝えられる二桜館には、『磐井郡流清水村風土記御用書出』(安永四年(1775))に、文屋綿麻呂、熊谷二郎直季、奥州藤原氏の家臣であった照井太郎高春らに続き、延慶2年(1309)からは葛西清秀とその家臣の居城となり、葛西氏滅亡後は伊達氏の一族である留守政景が元和(1615~1624)年間頃まで居城した、とある(花泉町史編纂委員会1988)。本遺跡の中世末期の遺構・遺物は、留守氏が居城した年代にあたり、それと関連して内耳鉄鍋の鑄造が行われていた可能性もある。

参考文献

- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1999『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第297集下館銅屋遺跡発掘調査報告書』
- 草間俊一1956「花泉阿惣沢遺跡調査概報」『岩手史学研究No.21』岩手史学会
- 花泉町遺跡発掘調査団1993『花泉遺跡』花泉町教育委員会
- 花泉町史編纂委員会1984『花泉町史(通史)』花泉町史刊行会
- 花泉町史編纂委員会1988『花泉町史(資料編)』花泉町史刊行会
- 加藤晋平・鶴丸俊明・安田喜憲・粉川昭平1988「花泉町下金森遺跡—1975—」『花泉町史 資料編』花泉町史刊行会

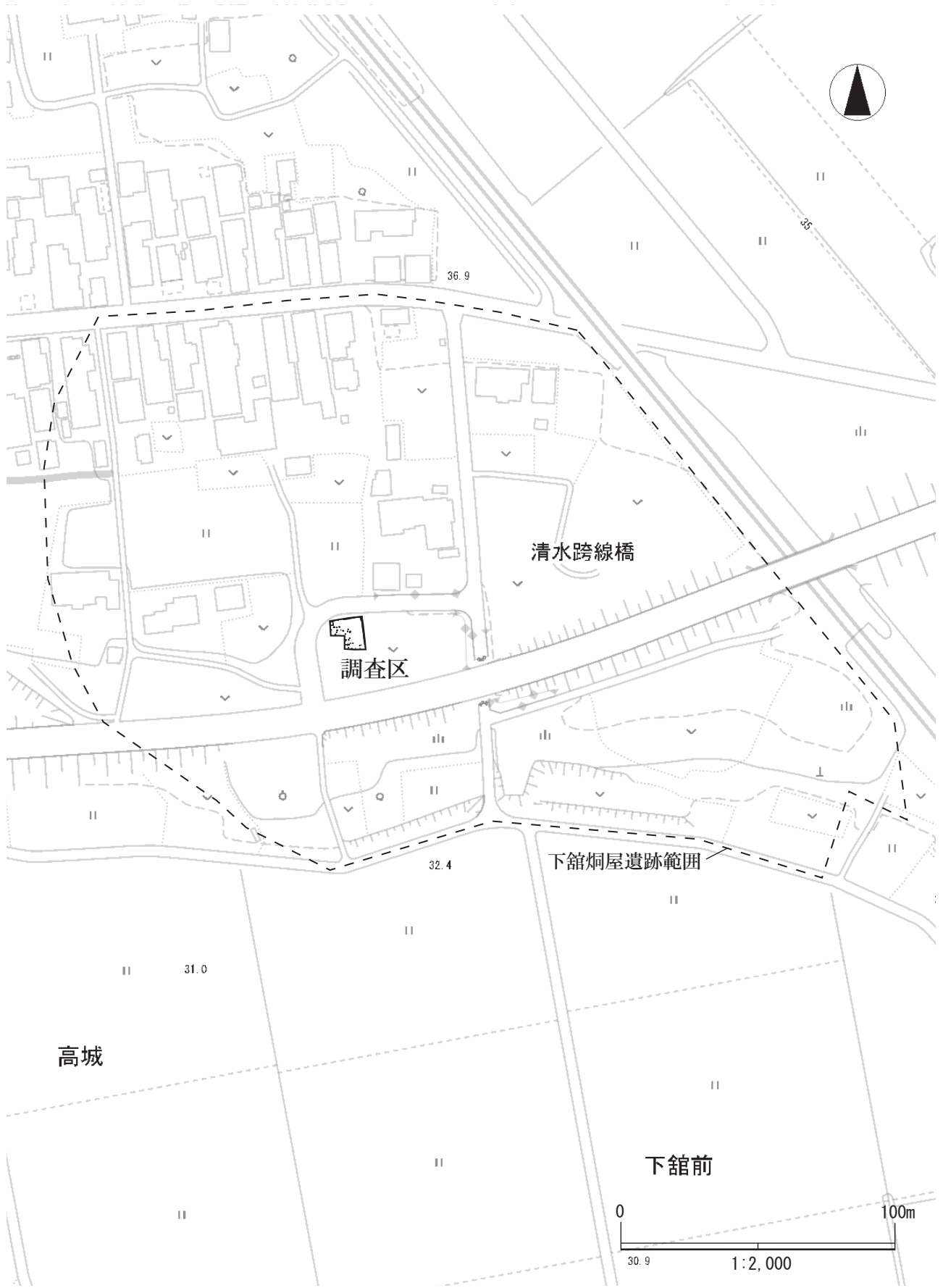


图3 調査区位置图

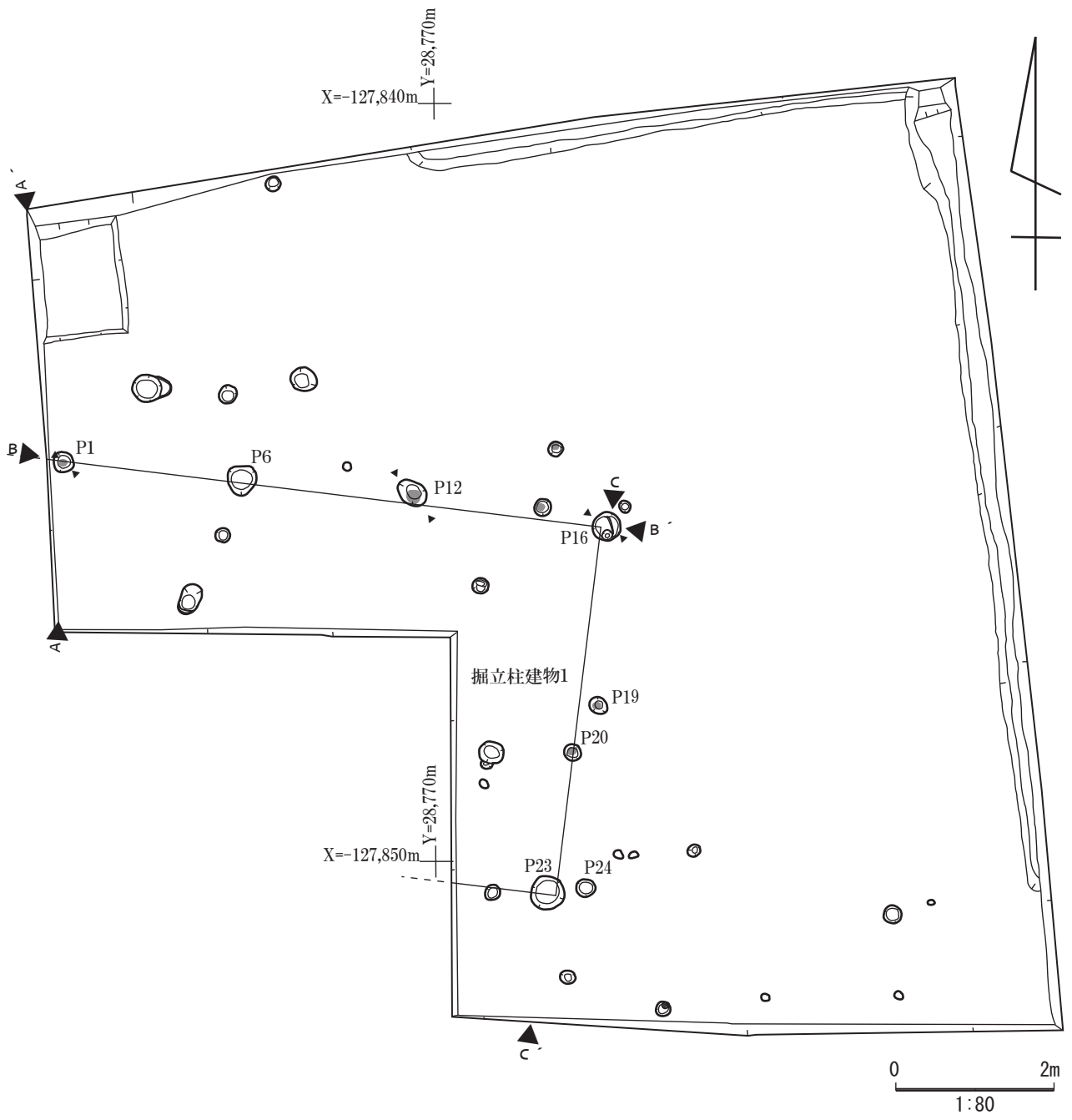
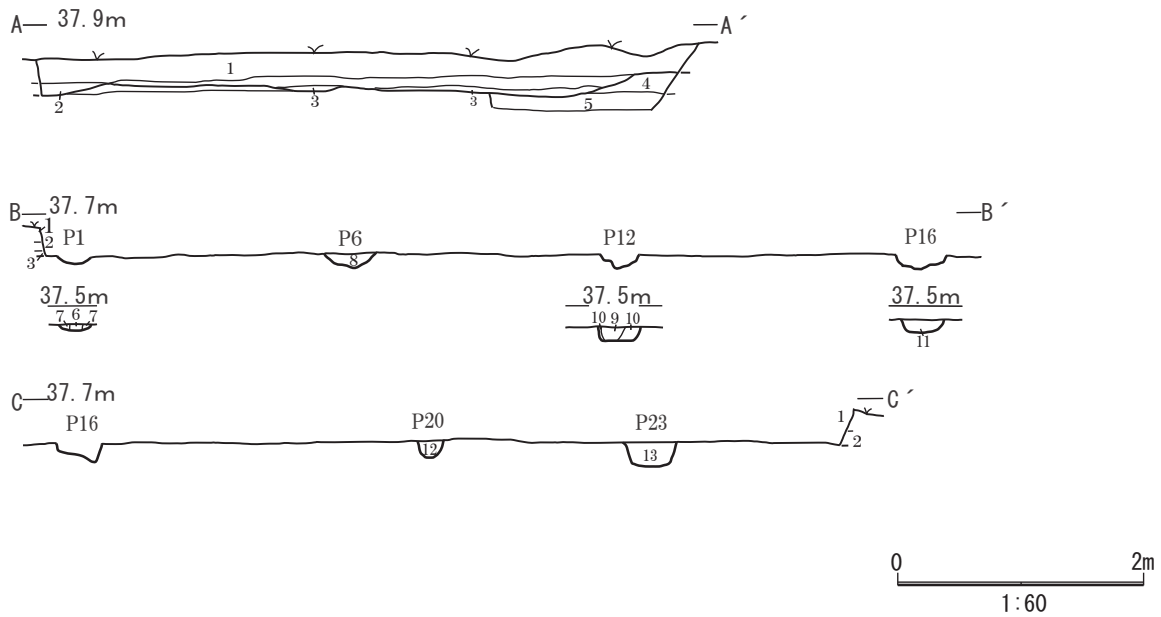


图4 遺構平面図



土層注記

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト。砂質分を多く含む。炭化物を含む。粘性あり。しまりなし。表土層。客土か。基本土層Ⅰ層。
- 2 10YR5/1褐灰色粘土。砂質分を含む。炭化物を含む。粘性あり。しまりなし。鉄分を多く含む。水田耕作土層。基本土層Ⅱ層。
- 3 10YR3/2黒褐色シルトに地山塊(径0.5~3.0cm大)が均一に5~10%混じる。砂質分を含む。炭化物を含む。粘性あり。しまりなし。新しい造成土層。基本土層Ⅲ層。
- 4 10YR6/3にぶい黄褐色粘土。砂質分、マンガング粒を多く含む。かたくしまる。地山層。基本土層Ⅳ層。
- 5 10YR7/3にぶい黄褐色粘土。かたくしまる。地山層。基本土層Ⅴ層。
- 6 10YR5/1灰黄褐色粘土に地山塊(径0.5~2.0cm大)均一に20~30%混。炭化物含む。粘性あり。しまりあり。据え方。
- 7 10YR5/1灰黄褐色粘土に地山塊(径0.5~2.0cm大)均一に40~50%混。炭化物含む。粘性あり。しまりあり。掘り方。
- 8 10YR3/2黒褐色シルトに地山塊(径0.5~3.0cm大)均一に10~20%混。炭化物含む。粘性あり。しまりあり。
- 9 地山塊主体で暗褐色シルト均一に少量混。炭化物含む。粘性あり。しまりあり。
- 10 10YR3/2黒褐色シルトに地山塊(径0.5~3.0cm大)均一に30~40%混。炭化物含む。粘性あり。掘り方。
- 11 10YR3/2黒褐色シルトに地山粒(径0.5~5.0cm大)均一に30~40%混。炭化物含む。粘性あり。しまりあり。
- 12 10YR3/3暗褐色シルトに地山塊(径0.5~5.0cm大)中心部に多く10~20%混。炭化物含む。粘性あり。しまりあり。
- 13 10YR3/2黒褐色シルトに地山塊(径0.5~1.0cm大)均一に5~10%混。炭化物含む。粘性あり。しまりあり。

図5 土層断面図

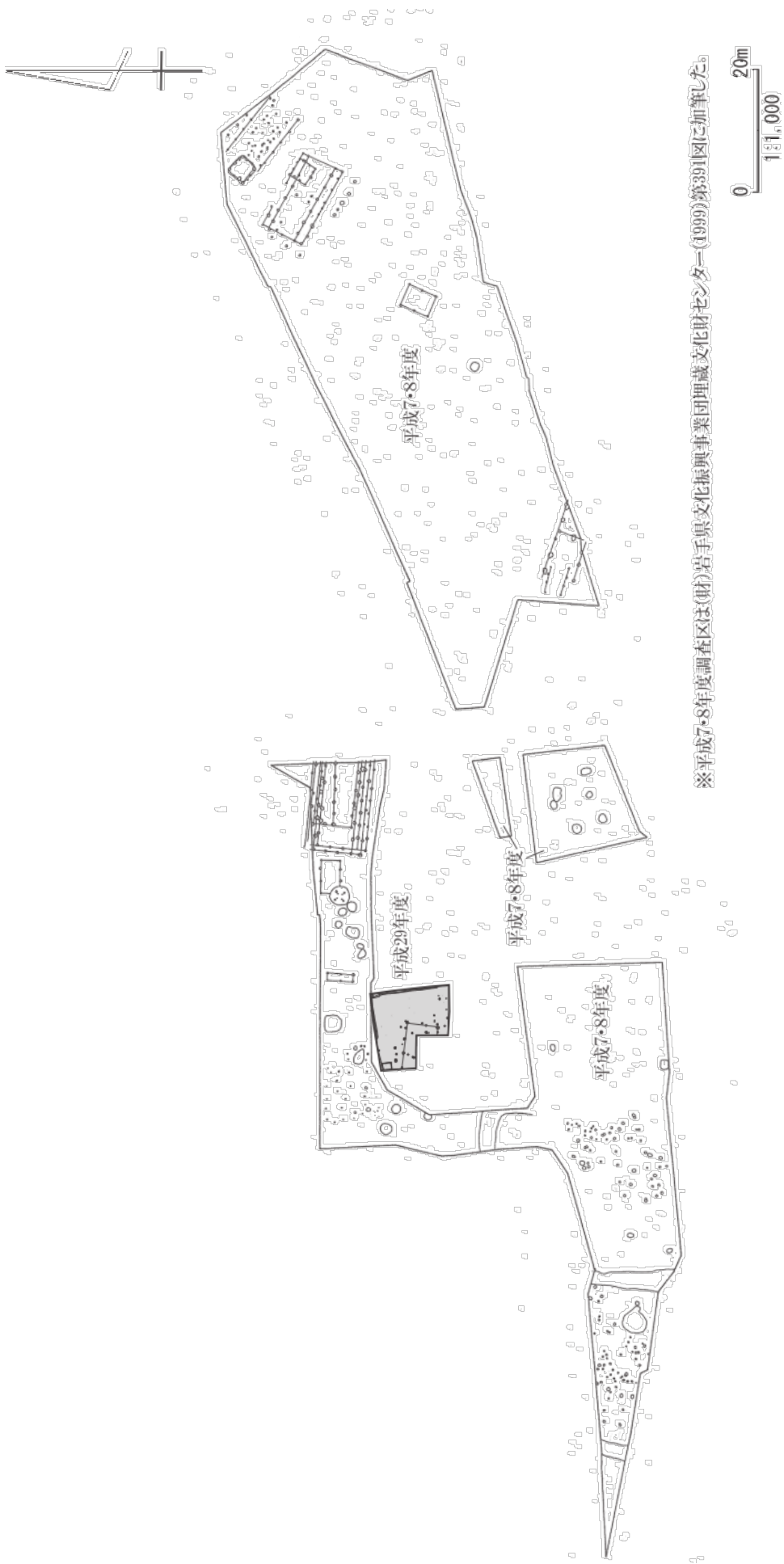


図6 下館炯屋遺跡中世末遺構配置図



1 調査区全景（南東から）



2 図5-A-A' 断面図



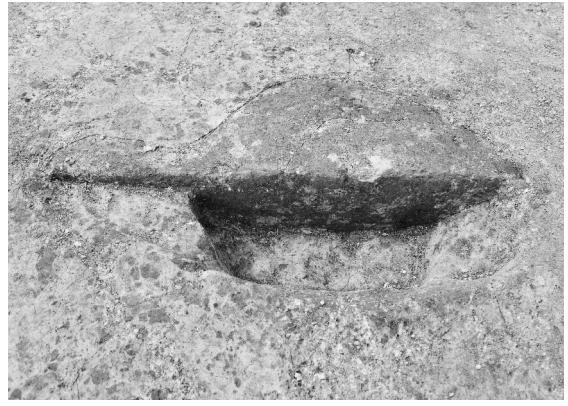
1 掘立柱建物（北東から）



2 P23・24 半裁状況（北東から）



1 P1 土層断面



2 P6 土層断面



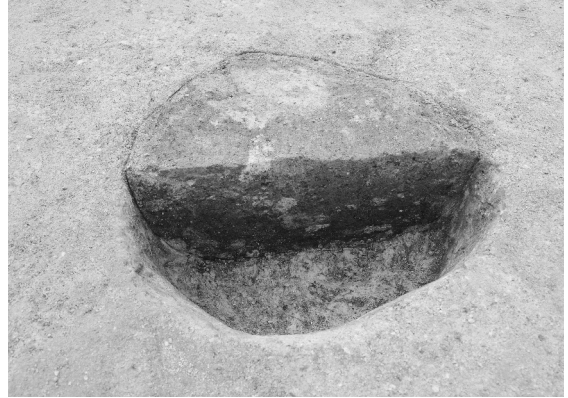
3 P12 土層断面



4 P16 土層断面



5 P20 土層断面



6 P23 土層断面

抄 録

ふりがな	しもだてどうやいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	下館炯屋遺跡発掘調査報告書							
副書名	一関市消防団花泉第3分団第1部消防屯所建築工事に伴う発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県一関市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第23集							
編著者名	菅原孝明・二階堂里絵							
編集機関	一関市教育委員会							
所在地	〒021-8503 一関市竹山町7-5 TEL0191-26-0820							
発行年月日	2017年11月10日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しもだてどうやいせき 下館炯屋遺跡	いちのせきしはないずみちよ うはないずみあざまち47-2 一関市花泉町花泉字 町47-2	03209	OE27 -2111	38°50'52"	141°9'53"	20170410 ～ 20170424	108m ²	記録保存 調査
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
下館炯屋遺跡	集落	中世～近世		掘立柱建物 柱穴				
要約	<p>今回の調査では、調査区南西部の地山層上面で、掘立柱遺跡を構成する6基の柱穴を確認した。遺物は出土しなかった。</p> <p>平成7・8年度に実施された隣接地の調査で、主に中世末期の遺構・遺物が確認されていることから、今回確認した遺構の年代もそれに属する可能性が高い。</p>							

岩手県一関市埋蔵文化財発掘調査報告書第23集

下館炯屋遺跡発掘調査報告書

—一関市消防団花泉第3分団第1部消防屯所建築工事に伴う発掘調査—

発行年月日 平成29年11月10日

発行 一関南消防署
〒029-3205
岩手県一関市花泉町涌津字下原263
電話 (0191) 82-0119

編集 一関市教育委員会
〒021-8503
岩手県一関市竹山町7-5
電話 (0191) 26-0820

印刷 川嶋印刷株式会社
〒029-4194
岩手県西磐井郡平泉町平泉字佐野原21
電話 (0191) 46-4161(代)